

## 第72回人権週間

昭和23(1948)年12月10日の第3回国際連合総会で世界人権宣言が採択されました。国際連合は、世界人権宣言の採択を記念して、採択日を「人権デー」と定め、加盟国では、人権擁護活動を推進するための各種行事が実施されています。我が国では、法務省と全国人権擁護委員連合会が、「人権デー」を最終日とする1週間を「人権週間」と定め、人権尊重思想の普及高揚に努めています。令和2年度も、「第72回人権週間」の期間中に、全国各地でさまざまな啓発活動が実施されました。

### 人権啓発ポスター・パネル展

令和2年12月4日(金)から10日(木)までの間、岐阜地方法務局大垣支局と大垣人権擁護委員協議会の主催による啓発が、大垣市三塚町のイオンタウン大垣EAST棟2階南側で行われました。今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小して「人権啓発ポスター・パネル展」として開催されました。人権啓発に使用されたさまざまなポスターや、「人権」についてやさしく説明したパネルが展示され、大人から子どもまで、人権を学ぶ機会となりました。



人権啓発ポスター・パネル展会場



さまざまな人権啓発ポスター

### 人権啓発横断幕の掲示

大垣市は、12月4日(金)から10日(木)までの間、JR大垣駅南北自由通路に人権尊重のまちづくりを訴える横断幕を掲出したほか、12月3日(木)には、岐阜ラジオ放送の「大垣市の時間」において、人権週間の紹介と啓発を行いました。



# 人権Letter

No.26  
 令和3年3月  
 発行

— 法務省 人権啓発キャッチコピー — 「誰か」のことじゃない。  
(「東京2020公認 人権啓発キャッチコピーコンテスト」最優秀作品) 大垣市 市民活動部 人権擁護推進室

## ストップ! 「コロナハラスメント」

令和2年9月1日に、岐阜県知事と大垣市長をはじめとする県内全42市町村長の連名で「ストップ「コロナ・ハラスメント」宣言」が行われました(<https://www.pref.gifu.lg.jp/site/covid19/84880.html>)。この宣言は、新型コロナウイルスに感染した方や、その家族・同僚、医療従事者などに対する差別・偏見・誹謗中傷(コロナハラスメント)を防止するためのものです。

### ストップ「コロナ・ハラスメント」宣言 ~「思いやり」と「感謝」を~

新型コロナは、誰でも感染する可能性があり、私たちが闘っている相手は、人ではなくウイルスです。感染した方を「思いやり」、その立場を守ります。また、最前線で治療や社会生活維持にあたる医療従事者や関係者の方々に「感謝」します。このように人との絆を大切に、この難局を乗り越えましょう。



- 患者、濃厚接触者、医療従事者、外国人の方々、他地域からの来訪者、そして、それらのご家族や特定の店舗などへの差別的扱い、非難を絶対になくしましょう。
- 不確かな感染情報(デマ)の拡散は許されることではありません。SNSに書き込むなど安易に広げることは、かえって人に不安を与えるだけです。
- 医療従事者をはじめ、新型コロナ対策に携わる関係者の方々、あるいは食品流通業務や、生活安全業務など、私たちの暮らしを支える方々に改めて感謝しましょう。

市新型コロナウイルス感染症対策本部では、コロナハラスメントの防止、医療従事者への感謝の気持ち、感染症予防の対策を伝えるために、JR大垣駅の南北自由通路に横断幕とフラッグを掲出しています。



# 新型コロナウイルス感染症と コロナハラメントを広げないために

現在、新型コロナウイルス感染症により、私たちの生活は大きな影響を受けており、感染症拡大とコロナハラメントの防止が大きな課題となっています。日本赤十字社では、コロナハラメントをわかりやすく解説したガイド「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!」を作成し、ホームページで公開しています。ここでは、それを要約して紹介します。

## 新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう

～負のスパイラルを断ち切るために～

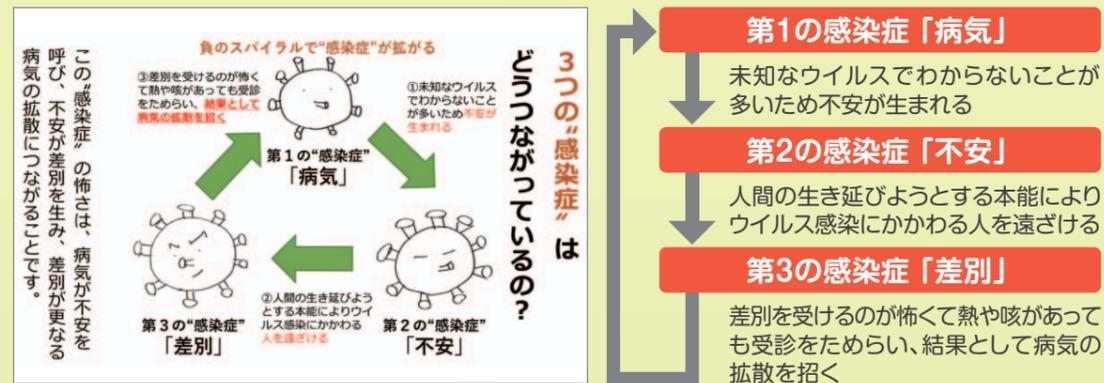
新型コロナウイルスによる感染症は、世界中で感染の拡大が続いている状況です。この感染症は、3つの顔を持っており、これらが「負のスパイラル」としてつながることが、更なる感染の拡大につながっています。

**新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう!**  
～負のスパイラルを断ち切るために～

新型コロナウイルスによる感染が流行しています。

「3つの感染症」といって顔があるのです。知らず知らずのうちに私たちが影響を受けていることをみなさんにご存知ですか?

### 3つの感染症はどうつながっているの?



- **第1の感染症「病気」を防ぐために**  
1人1人が衛生活動を徹底しましょう  
(手洗い、咳エチケット、人混みを避ける)
- **第2の感染症「不安」に振り回されないために**  
「気づく力」「聴く力」「自分を支える力」を高めましょう
- **第3の感染症「差別」を防ぐために**
  - ・「確かな情報」を拡めましょう
  - ・差別的な言動に同調しないようにしましょう
  - ・医療従事者など、この事態に対応しているすべての人に「ねぎらい、敬意」を払いましょう

**まとめ**  
このように、新型コロナウイルスは「3つの感染症」という顔を持って、私たちの生活に影響を及ぼします。このウイルスとの戦いは、長期戦になるかもしれません。それぞれの立場でできることを行い、みんなが「1」になって負のスパイラルを断ち切りましょう!

# みなさんは、シトラスリボンプロジェクトを知っていますか?

シトラスリボンプロジェクトとは・・・

## ～ただいま、おかえりって言いあえるまちに～ シトラスリボンプロジェクト



コロナ禍で生まれた差別、偏見を耳にした愛媛の有志がつくったプロジェクトです。愛媛特産の柑橘にちなみ、シトラス色のリボンや専用ロゴを身につけて、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動を広めています。リボンやロゴで表現する3つの輪は、地域と家庭と職場(もしくは学校)です。

「ただいま」「おかえり」と言いあえるまちなら、安心して検査を受けることができ、ひいては感染拡大を防ぐことにつながります。また、感染者への差別や偏見が広がることで生まれる被害も防ぐことができます。感染者が「出た」「出ない」ということ自体よりも、感染が確認された「その後」に的確な対応ができるかどうかで、その地域のイメージが左右されると、考えます。コロナ禍のなかに居ても居なくても、みんなが心から暮らしやすいまちを今こそ、コロナ禍の「その後」も見すえ、暮らしやすい社会をめざしませんか?

このプロジェクトについて、詳しくは、<https://citrus-ribbon.com/> をご覧ください。

## 市民人権とおく

S H I M I N J I N K E N T O K U

「広報おがき」などで募集した、心温まる「ちょっといい話」をご紹介します。

## 折り紙であふれた病室

先日、友人が入院したのでお見舞いに行きました。淋しそうにしているだろうと予想していましたが、病室のドアを開けた途端、赤や黄や緑などの鮮やかな色が目に飛び込んできました。そこにはカールした花びらのチューリップや一風変わった形の羽を大きく広げた鶴などの折り紙作品が所狭しに並べられていました。同室の隣の方が作ってプレゼントして下さったとのこと。そこから話が弾み、万華鏡の折り方を教えていただくことになり、その場にいた5人は、まるで昔からの親友のように再会の約束をしました。

(坂下町 H・Sさんより)



## 大垣市人権のまちづくり懇話会 委員のコメント

入院をされていると、淋しい気持ちになったり気分的に落ち込んでいってしまうですね。同室の方の折り紙によって、病室の雰囲気が明るくなり、ご友人の心も温かくなったことでしょう。お見舞いに行かれたH・Sさんも素敵な出会いがありましたね。